



## 『環頭太刀 (かんとうち)』

頭部が環状になった太刀 (たち) のことです。古墳には多くの太刀や甲冑、武具、馬具が埋葬されています。環頭太刀は実用の武器でもあります。首長 (王) の権力を示す意味を持っていました。そのため環の部分に金を貼ったり象嵌 (ぞうがん) が施されたりしています。装飾の何もない太刀を素環頭太刀と呼びます。

宮山古墳の第二主体 (石室) から発見された環頭太刀には、銀が貼られ象嵌が施された立派な太刀で実用可能な刀でした。(刃がつけられていたそうです) 環頭は刀部とは別に作られ、鍛接されたものです。この環頭に銀を貼り、中央に飛び出したつくしの頭のような文様を持つ突起は金で別に作られ、銀でかしめ留めされています。X線写真は右です。

大和政権が成立すると、綺麗に飾った環頭太刀を地方の豪族に贈り、王権を誇示したと考えられています。これらの太刀を作った職人たちは王の管理下におかれた特殊工人だったのでしょうか。宮山古墳展を見学した際、学芸員の方に尋ねると『この近くで刀剣などを作った遺跡は見つかりません。たぶん、大和方面から贈られたものでしょう。』こんな回答でした。

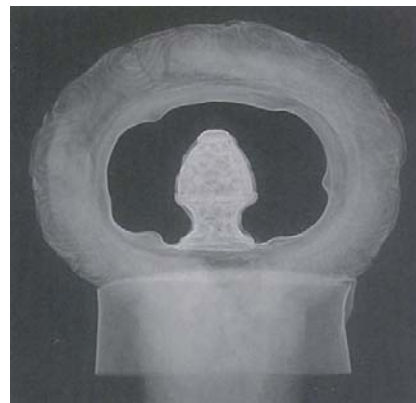
この太刀の正式な名前は銀錯貼金環頭太刀 (ぎんさく てんきん かんとうち) というようですが、漢字だけが書かれた表示板で、私には読めませんでした。



全長 86.0 cm

銀錯貼金環頭太刀

X線ラジオグラフィー



### 古墳時代とは

弥生時代後半になると各地でいくつかの「クニ」ができ、その有力者の中から首長が誕生します。この一人の首長のために大規模な墳墓—古墳が作られていく、古墳時代の始まりです。

各地の首長たちは政治的同盟関係を結んでゆきその盟主となったのが、後に畿内と呼ばれる近畿中央部の首長達による「ヤマト政権」であった。古墳時代前期から中期にはまだ同盟関係を超越するものではなかったが後期になると、その差は歴然とし王権とも呼べる強大なものとなった。

姫路市南東部、市川下流における主な古墳は壇上山古墳 (5世紀前半)、山之越古墳 (5世紀前半)、宮山古墳 (5世紀後半)、見野長塚古墳 (6世紀前半) です。

#### 参考資料

宮山古墳展 図録 姫路市埋蔵文化財センター 2005年  
宮山古墳展 解説

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamono.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

5月14日より 電話番号が変わりました。住所録を訂正してください。

新電話番号 079-234-1515 旧番号 0792-34-1515

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!